

国土交通省関東地方整備局 政策広報誌
平成23年1月号(隔月発行・通算第57号)
責任者 広報広聴対策官室
Tel 048-600-1324

政策広報

関東地方整備局

第57号

関東の窓

目次

国土交通本省の動き

- 1 平成23年度国土交通省関係予算概要
- 2 建築基準法の見直しに関する検討会のとりまとめ等の公表について
- 3 調査・設計等業務における総合評価落札方式の実施状況(平成21年度年次報告)の公表について
- 4 建設産業の再生と発展のための方策に関する当面の基本方針について

関東地方整備局の動き

- 1 1月18日付け人事異動
- 2 平成22年度第2回「災害対策等緊急事業推進費」を活用した災害対策の実施
- 3 新たに『事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)』始めます
- 4 民間活力を活用した堤防管理の新たな試み

地域の動き

街にやさしい川づくりをめざして 東川地下河川

埼玉県 県土整備部 川越県土整備事務所

この広報に関する皆様からのご意見・ご質問・ご感想をお待ちしております。
どしどしお寄せ下さい。

あわせて、メールマガジンの配信先が変更になられた場合等には、下記のアドレスまでご連絡下さい。

[e-mail:kantonomado@ktr.mlit.go.jp](mailto:kantonomado@ktr.mlit.go.jp)

事務局 国土交通省関東地方整備局

総務部	総務企画官	菌部	由久	TEL:048-600-1324	FAX:048-600-1369
企画部	企画課建設専門官	永江	浩一郎	TEL:048-600-1329	FAX:048-600-1372

国土交通本省の動き

1. 平成23年度国土交通省関係予算概要

政権交代後、新政権がゼロから取り組む最初の本予算である平成23年度予算においては、既存の事業を抜本的に見直し、「国土交通省成長戦略」の実現をはじめ、確固たる戦略の下に大胆に予算を組み替えることにより、新たな時代に対応しながら、我が国を牽引する国土交通行政へと大きく転換を図る。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_001331.html

2. 建築基準法の見直しに関する検討会のとりまとめ等の公表について

国土交通省は、建築基準法に基づく制度のあり方について検討を進めるため、深尾精一首都大学東京教授を座長とする「建築基準法の見直しに関する検討会」を設置し、検討を進めてきたところですが、今般、検討結果がとりまとめられましたので、公表いたします。

なお、とりまとめの中で検討するよう求められている確認審査に要する期間の実績の開示については、構造計算適合性判定を要する物件に係る同期間の本年9月分及び10月分の実績をとりまとめましたので、あわせて公表いたします。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/house05_hh_000217.html

3. 調査・設計等業務における総合評価落札方式の実施状況（平成21年度年次報告）の公表について

国土交通省では、調査・設計等業務における総合評価落札方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として、調査・設計等業務における総合評価落札方式の実施状況（年次報告）を作成し、公表しております。今般、平成21年度の年次報告について作成しましたので公表します。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000117.html

4. 建設産業の再生と発展のための方策に関する当面の基本方針について

建設産業戦略会議において、「建設産業の再生と発展のための方策に関する当面の基本方針」がとりまとめられましたので、お知らせいたします。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo13_hh_000097.html

関東地方整備局の動き

1. 1月18日付け人事異動

発令事項 国土交通省道路局長 菊 川 滋(きくかわ しげる) 前職 関東地方整備局長

発令事項 関東地方整備局長 下 保 修(しもやす おさむ) 前職 国土交通省大臣官房
技術審議官

2. 平成22年度第2回「災害対策等緊急事業推進費」を活用した災害対策の実施

平成22年8月の豪雨より、信濃川水系矢出沢川(長野県上田市)において護岸の決壊や溢水による浸水被害、同年7月に南アルプス公園線(山梨県早川町)において崖崩れ及び十国鬼島線(山梨県富士川町)において岩盤崩落が発生した箇所において、災害対策等緊急事業推進費を活用し、早急に再発防止対策を実施します。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000139.html

3. 新たに『事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)』始めます

全国では交通事故の71%が幹線道路の22%の区間で発生しています。事故ゼロプランは、このような危険な箇所を地域の方といっしょに選定し、地域の方にも危険な箇所との認識を持っていただきながら、集中的・重点的に交通事故の撲滅に取り組むものです。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000151.html

4. 民間活力を活用した堤防管理の新たな試み

関東地方整備局では、近年の財政事情による維持管理費の縮減に伴い、民間の活力を活用した新たな河川管理を模索しています。

とりわけ、維持管理費の中で大きな比率を占める堤防管理に着目し、民間団体と一緒に堤防を管理し、堤防刈草を有効活用する「堤防管理パートナー」制度の試行と民間の持っている新たな堤防植生技術を発掘するための「堤防植生フィールド試験」を行っています。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000014.html

地域の動き

街にやさしい川づくりをめざして 東川地下河川

埼玉県 県土整備部 川越県土整備事務所

1 はじめに

東川は狭山湖付近を起点とし、所沢市の中心市街地を東に流下、坂の下地先で柳瀬川に合流した後、新河岸川に注ぐ一級河川です。

東川沿いは奈良時代から交通の重要拠点として発展し、鎌倉時代や江戸時代には宿場街として賑わった場所であり、所沢市街には「弘法の三ッ井戸」に由来する民話や史跡が残っています。また、西武新宿線より下流沿川には、東京オリンピック記念の桜並木があり春には桜の名所となっており、人々から広く親しまれています。



第1立坑付近



排水立坑付近

しかし、市街地の進展に伴い、雨水が地中へ浸透する量が少なくなる事により、中心市街地でたびたび浸水被害が発生するようになりました。

今後、上流部の市街化によって、流出量のさらなる増大が予想されます。このため、東川は住宅地内を流れる都市河川として、浸水被害の軽減を目指す河川整備が求められています。また併せて人々に潤いとやすらぎをもたらす環境の整備が求められました。

2 これまでの浸水被害

東川沿川では、平成元年以来、4度にわたる大きな浸水被害にみまわれてきました。特に市街地中心部の開明橋付近と境橋付近では幾度も洪水被害が発生し、平成4年7月15日の集中豪雨では広範囲に浸水しました。

浸水状況（平成3年9月20日台風18号 / 所沢消防署撮影）



開明橋付近

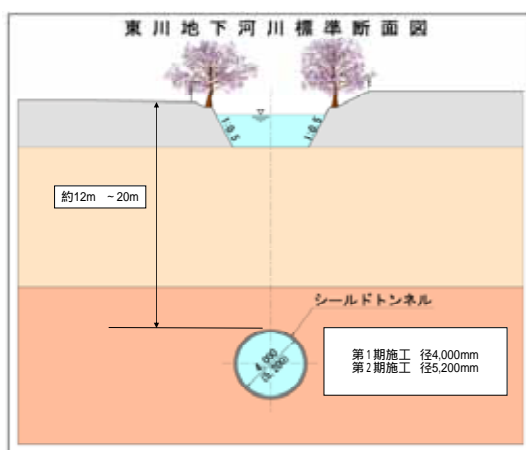


境橋付近の住宅街



3 対策

東川の改修計画は東川周辺の自然環境や親水機能を保全する「環境整備」と、洪水被害を軽減する「河川改修」を両立することが求められました。このような条件の下、地下空間の利用が最も適切な方法と考え、現河道直下に地下河川が計画されました。



標準断面図

第2期区間 平成21年12月撮影

4 事業の概要

1) 第1期整備（第3立坑～第1流入立坑）

期間：着工H14年～完了H16年

第1期整備が完成し、第2期整備が終了するまでの間は、地下河川内を空にし、大雨が降った時、東川の流水を地下河川に流入させ貯留施設として利用しました。

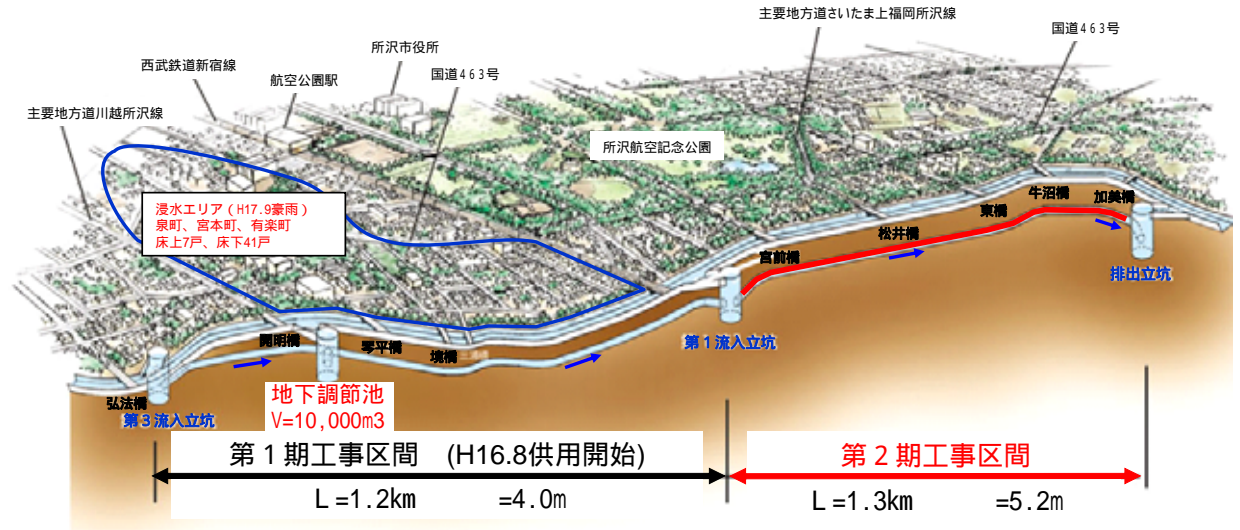
東川本川の水位が下がった後、第1立坑からポンプ設備により排水しました。

2) 第2期整備（第1流入立坑～排水立坑）

期間：着工H19年～完了H23年予定（目標）

第2期整備が終了し、東川地下河川全体が完成すると、本格的な地下河川の供用となります。流域に降った雨が3基の流入立坑から地下河川に流入し貯留されます。地下河

川が満杯になると、上下流の水位差によって自然に排水立坑から地下河川本川に流れます。地下河川内の水位が下がり自然流下が止まった後、地下河川内に貯留した水をポンプ設備により排水します。



5 東川地下河川の工法について

1) 泥土圧シールド工法

東川の沿川には多くの住宅地が近接しており低騒音・低振動で周辺地盤への影響を最小限にする工法が求められた結果、泥土圧工法を採用しました。

また、蛇行する河川形状に対応しなければならないため、掘削機には曲線掘削用の中折れ装置を採用しました。



シールド機仕様	
形式	泥土圧式シールド
シールド機本体	
外径	5750mm
機長	7650mm
対応セグメント	
種別	コンクリート中詰め鋼製
セグメント外径	5600mm
セグメント厚	200mm
セグメント分割数	6分割

2) コンクリート中詰め鋼製セグメント

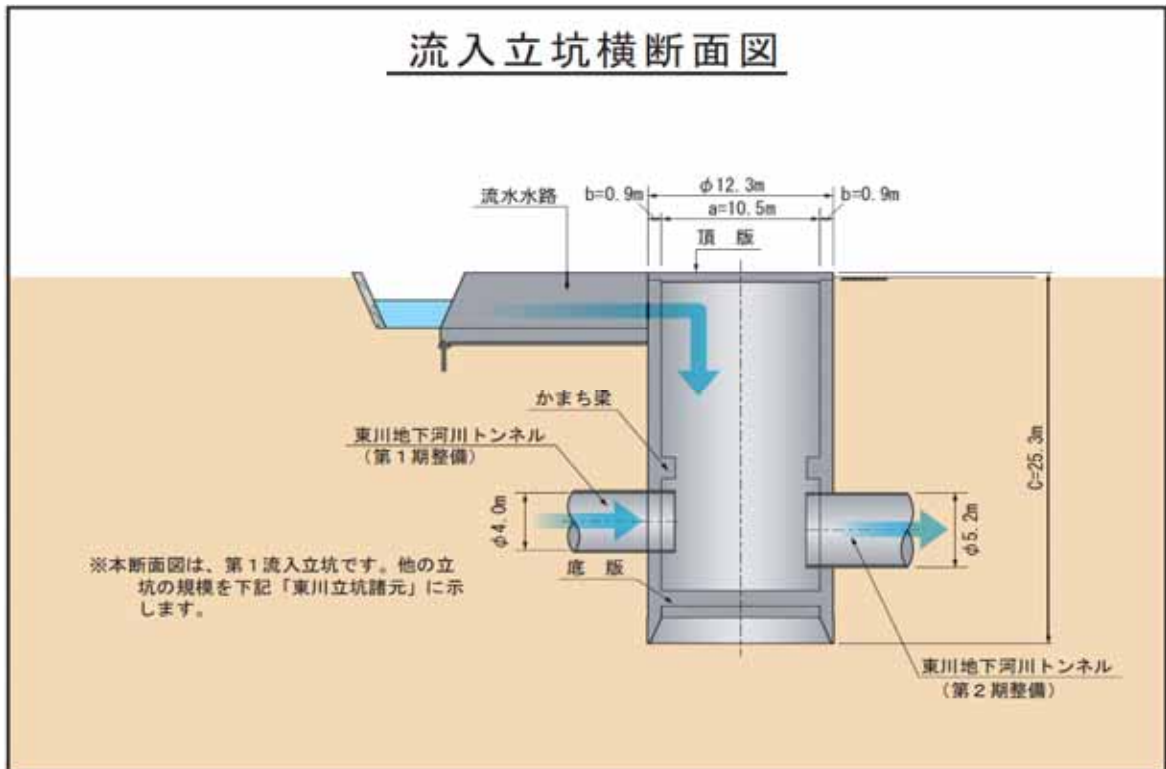
建設コスト縮減、施工工期短縮を目的として二次覆工が省略出来る内圧対応型のセグメントを採用しました。

今回の工事では多くの形式がある内圧対応型セグメントの中から急曲線が多い当該区間において、構造的、施工性及び経済性に優れる「コンクリート中詰め鋼製セグメント」を採用しました。

3) 圧入オープンケーソン工法

東川地下河川の全ての立坑は圧入オープンケーソン工法で施工しました。圧入オープンケーソン工法は地上で躯体を構築し、この躯体自体を土留工として兼用させながら地中に圧入沈設し、所定の深さに構造物を築造する工法です。

この工法は躯体を沈設するために躯体の自重を利用します。しかし自重だけでは必要な沈下力が不足することから、グラウンドアンカーを設置し反力を得て施工を行います。この際にケーソン天端に複数のアンカージャッキを設置し圧入力を制御し、精度の高い沈設を行うことを可能としました。



	a 立坑内径	b 側壁厚	c 立坑高
第1立坑	10.5m	0.9m	25.3m
第2立坑	5.5m	0.7m	25.9m
第3立坑	11.5m	1.1m	29.4m
排水立坑	13.0m	1.5m	23.4m

6 今後について

東川地下河川は昭和57年9月の洪水に相当する概ね50年に一度の確立で発生する洪水に対して、浸水被害を軽減することを目標に整備を進めています。この洪水被害を軽減する「河川改修」と周辺の自然環境・景観を保全する「環境整備」を両立させながら今後とも街にやさしい川づくりをめざして鋭意、事業を進めてまいります。